

# 裁判員裁判に対する意識調査



株式会社 コンピューター・プランニング・リサーチ

〒110-0016

東京都台東区台東4-28-11 御徒町中央ビル7F

TEL (03) 3835-0397 (代) FAX (03) 3835-1819



# 目次

## . 本報告書の概要

調査概要 . . . . . 3

## . 調査結果

今回の裁判への関心度 / 今後の裁判への影響度 . . . . . 4  
「死刑」に対する考え / 遺族の悲しみや辛さの軽減 . . . . . 5  
「死刑」への考えと悲しみや辛さの軽減 . . . . . 6

# 調査概要

<b>調査名</b>	裁判員裁判に対する意識調査																												
<b>調査目的</b>	2009年8月からスタートした裁判員裁判において、2010年10月に初めて「死刑」が求刑されるケースが発生した。今回のケースでは「無期懲役」という判決が下されたが、今後の裁判員裁判に対して一石を投じたのは間違いないであろう。そこで、今回の裁判に対する「注目度」及び今後の裁判に対する「影響度」、また「死刑」という刑罰に対する考えを明らかにすることを目的として調査を行った。																												
<b>調査対象</b>	(株)コンピューター・プランニング・リサーチのインターネットパネルより抽出した「20歳以上男女」500人を対象に調査。																												
<b>調査期間</b>	2010年11月4日(木)配信 ~ 11月5日(金)回収																												
<b>調査方法</b>	インターネット調査																												
<b>調査集計数</b>	500人 <下記割付表>																												
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #0056b3; color: white;"> <th></th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>		20代	30代	40代	50代	60代以上	合計	男性	50	50	50	50	50	250	女性	50	50	50	50	50	250	合計	100	100	100	100	100	500
	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計																							
男性	50	50	50	50	50	250																							
女性	50	50	50	50	50	250																							
合計	100	100	100	100	100	500																							
<b>対象エリア</b>	全国																												
<b>集計方法</b>	クロス集計																												

**【補足】** 単一回答の場合、各選択肢ごとに少数点第2位を四捨五入した数値を記載しているため、選択肢の合計が表記上100%にならないことがある。  
 本報告書における「今回の裁判」とは、2009年8月に耳かき店の女性店員及びその祖母を殺害した罪で起訴され、裁判員裁判において初の死刑求刑がなされた裁判のことを指すものとする。

【本件に関するお問い合わせ先】  
 株式会社コンピューター・プランニング・リサーチ  
 TEL: 03-3835-0397

# 今回の裁判への関心度 / 今後の裁判への影響度

**@ '今回の裁判への関心度' - 全体では「注目していた」が67.6ptと7割近くが注目していたという結果となった。**

・性別においては目立った差は見られなかったが、年代においては「20代」が62.0pt、「30代」が59.0ptと低い結果に、逆に「60代以上」が79.0ptで高い関心を示していた結果となった。また、「20代」において「まったく注目していなかった」及び「今回の裁判自体を知らなかった」としたのは16.0ptで他の年代に比べて高い結果であった。

**@ '今後の裁判への影響度' - 全体では「影響がある」が69.8ptと7割を占め、「影響がない」と回答したのは僅か5.6ptにとどまった。**

・性別及び年代において、目立った差は見られなかった。

・ただし、「60代以上」で「影響があると思う」と回答したのが33.0ptと全体と比べてやや高めの結果が見られた。

今回の裁判への関心度 (全体 / 単一回答)

		N	非常に注目していた	注目していた	あまり注目していなかった	まったく注目していなかった	今回の裁判自体を知らなかった	注目していた・計	注目していなかった / 知らなかった・計
全体		500	14.2	53.4	26.2	3.4	2.8	67.6	32.4
性別	男性	250	14.4	54.0	25.2	4.0	2.4	68.4	31.6
	女性	250	14.0	52.8	27.2	2.8	3.2	66.8	33.2
年代	20代	100	15.0	47.0	22.0	7.0	9.0	62.0	38.0
	30代	100	9.0	50.0	34.0	4.0	3.0	59.0	41.0
	40代	100	11.0	56.0	27.0	4.0	2.0	67.0	33.0
	50代	100	17.0	54.0	28.0	1.0	1.0	71.0	29.0
	60代以上	100	19.0	60.0	20.0	1.0	1.0	79.0	21.0

今後の裁判への影響度 (全体 / 単一回答)

		N	影響があると思う	どちらかといえば影響があると思う	どちらともいえない	どちらかといえば影響はないと思う	影響はないと思う	影響あり・計	影響なし・計
全体		500	26.4	43.4	24.6	4.4	1.2	69.8	5.6
性別	男性	250	26.8	41.6	24.0	6.0	1.6	68.4	7.6
	女性	250	26.0	45.2	25.2	2.8	0.8	71.2	3.6
年代	20代	100	25.0	48.0	23.0	2.0	2.0	73.0	4.0
	30代	100	27.0	38.0	25.0	8.0	2.0	65.0	10.0
	40代	100	20.0	49.0	25.0	4.0	2.0	69.0	6.0
	50代	100	27.0	43.0	26.0	4.0	0.0	70.0	4.0
	60代以上	100	33.0	39.0	24.0	4.0	0.0	72.0	4.0

# 「死刑」に対する考え / 遺族の悲しみや辛さの軽減

**@ 「死刑」に対する考え - 全体では、「死刑」という選択肢を肯定的に考えている人が85.2ptという結果となった。**

- ・性別で見ると、「必要と判断すれば迷わず「死刑」の決断をすることができると思う」が「男性」で40.4pt、「女性」で20.8ptと約20ptの差がついた結果となった。
- ・年代では、「60代以上」で「死刑」という選択肢を肯定的に考えているのが93.0ptと全体に比べて高めの結果となった。

**@ 「死刑」で遺族の悲しみ・辛さはどの程度軽減できるか - 全体では「軽減できる」が64.0ptと6割を超える結果となった。**

- ・年代では、「30代」で55.0ptと最も低く、「60代以上」の76.0ptと20pt以上の差がつく結果となった。

「死刑」に対する考え (全体 / 単一回答)

			必要と判断すれば迷わず「死刑」の決断をすることができると思う	自ら「死刑」の決断することには迷いがあるが、議論の結果「死刑」となった場合その判決を支持すると思う	できる限り、「死刑」という判決にならないようにしたいと思う	何があるうと、「死刑」という決断はしないと思う		
N							「死刑」に対して肯定的・計	「死刑」に対して否定的・計
全体		500	30.6	54.6	10.6	4.2	85.2	14.8
性別	男性	250	40.4	42.8	11.2	5.6	83.2	16.8
	女性	250	20.8	66.4	10.0	2.8	87.2	12.8
年代	20代	100	34.0	48.0	14.0	4.0	82.0	18.0
	30代	100	31.0	57.0	8.0	4.0	88.0	12.0
	40代	100	28.0	54.0	14.0	4.0	82.0	18.0
	50代	100	30.0	51.0	13.0	6.0	81.0	19.0
	60代以上	100	30.0	63.0	4.0	3.0	93.0	7.0

「死刑」で遺族の悲しみ・辛さはどの程度軽減できるか (全体 / 単一回答)

			非常に軽減することができると思う	ある程度軽減することができると思う	あまり軽減できないと思う	まったく軽減することはできないと思う		
N							軽減できる・計	軽減できない・計
全体		500	12.2	51.8	26.2	9.8	64.0	36.0
性別	男性	250	14.8	45.6	28.0	11.6	60.4	39.6
	女性	250	9.6	58.0	24.4	8.0	67.6	32.4
年代	20代	100	12.0	48.0	32.0	8.0	60.0	40.0
	30代	100	11.0	44.0	33.0	12.0	55.0	45.0
	40代	100	12.0	50.0	26.0	12.0	62.0	38.0
	50代	100	12.0	55.0	24.0	9.0	67.0	33.0
	60代以上	100	14.0	62.0	16.0	8.0	76.0	24.0

# 「死刑」への考えと悲しみや辛さの軽減

**@「死刑」に対する考えで「死刑」という選択肢を肯定的に考えている人ほど、より遺族の悲しみや辛さを軽減できると考えている結果に。**

- ・「必要と判断すれば迷わず「死刑」の決断をすることができると思う」では「非常に軽減することができると思う」が24.2pt、「ある程度軽減することができると思う」を含めると72.5ptという結果になった。
- ・逆に「できる限り「死刑」という判決にないようにしたいと思う」と「何があるうと「死刑」という決断はしないと思う」では「軽減できない」がそれぞれ54.7ptと76.2ptで半数を超える結果になった。

「死刑」で遺族の悲しみ・辛さはどの程度軽減できるか (全体 / 単一回答)

		N	非常に軽減することができると思う	ある程度軽減することができると思う	あまり軽減できないと思う	まったく軽減することはできないと思う	軽減できる・計	軽減できない・計
全体		500	12.2	51.8	26.2	9.8	64.0	36.0
「死刑」に対する考え	必要と判断すれば迷わず「死刑」の決断をすることができると思う	153	24.2	48.4	17.0	10.5	72.5	27.5
	自ら「死刑」の決断をすることには迷いがあるが、議論の結果「死刑」となった場合その判決を支持すると思う	273	6.6	59.3	27.5	6.6	65.9	34.1
	できる限り、「死刑」という判決にないようにしたいと思う	53	5.7	39.6	37.7	17.0	45.3	54.7
	何があるうと、「死刑」という決断はしないと思う	21	14.3	9.5	47.6	28.6	23.8	76.2